

# 九州産業考古学会報

第17号 2012年9月1日発行 発行元：九州産業考古学会

## 「204号電車」は帰ってきた

古賀知行（会員・「古雅書店」店主）

2010年11月ころ、昔大牟田市内を走っていた電車が  
ある、という話を聞き込みました。しかも大変痛んで、来る  
3月には処分すると言うことでした。

これは何とかせねばなるまいと、年明けに地元の新聞に  
投稿し保存できないかと小生がよびかけたのが ことの始  
まりでした。その呼びかけに応じて名乗り出てくださった  
のは全く未知の数の方々でしたが、その熱心さは「これ  
は何とかなる」と思わせました。早速世話人会を始め、走  
り出したのですが、2011年4月20日にやっと市の郊外に  
一応里帰りさせることが出来ました。一応と断ったわけが  
あります。ここは修理のための「仮置き」という条件でお  
借りしたところなのです。

以来1年に涉って、ドア、ステップ、窓、屋根、シートそして外装と 多くの方々の協力で  
少しずつ修復をしてきてなんとか公開できるところまで漕ぎ着けました。

1周年の公開日には週日の午前中3時間というのに120人を越える方々が来られました。ここ  
までに相当の人々の好意が集まりました。ことに鉄工、塗装、窓枠などのプロ、元プロという  
「手に覚え」のある人たちのご協力・助力は全く有難く、当初想定した以上の手際と出来上が  
りのよさを実現できたと思っています。

204号電車は、戦前の大牟田電気軌道の発注で1943年、木南製造所で製作された当時最新  
鋭のボギー車です。このころすでに戦争の真っ只中、地方の小都市でしかない大牟田にとっ  
ては過ぎたとも思える配備は、ひとえに石炭関連の生産の大基地であったからでしょう。この  
ボギー車は市民に大好評でした。そして戦火をくぐり、戦後の混乱期も破れた窓に板を張って  
働いていた記録もあります。1952年廃止によって八女福島線に転属、さらに福岡市内線に移  
ったのですが、「204号」は大牟田の庶民の生活に密着した「歴史遺産」と考えております。運動  
としては、集まった人材、資金は実は当初の想定の三分の一という成績であることを報告す  
るのはまことに残念ですが やむを得ません。エネルギー問題で今見直されつつある路面電車、  
産炭地として太陽光発電を積極的に受け入れ、転換を図っている大牟田としてもこの電車を保  
存する意味は大いにありと訴えて活動しているところです。保存先の見込みは予断を許さない  
状況です。石炭と鉄道に関心のある会員のご助力、助言を期待しつつ、実践活動例として報告  
いたします。

## 【報告】

### 平成 24 年度総会

砂場一明（事務局長）

九州産業考古学会は、平成 24 年度総会を 7 月 1 日（日）に、三井郡大刀洗町の大刀洗ふれあいセンターで開催した。大刀洗は、地名の由来にもなった南北朝時代の南朝方武将菊池武光公ゆかりの古戦場としても有名だが、近代の太平洋戦争でも軍事基地ゆえに悲惨な犠牲地となった町でもある。今は町のシンボル今村天主堂を中心に、豊かな田園地帯が広がる平和の発信地として生まれ変わっている。

総会には会員 15 名が出席し、議事次第に基づき旧年度の活動及び会計報告がされた後、新年度の役員人事についても審議されたが、会則第 7 条により前任者がそのまま留任することで承認された。

今年度の主な事業としては、会報の発行・見学会などの定例行事のほか、秋に開催される産業考古学会全国大会（新居浜市）及び TICCIH 国際会議（台湾・台北市）があり、これには小会所属会員（複数）による研究報告や講演も予定されていることは喜ばしい。引き続き研究発表会が行われ、市原猛志氏「九州大学大学文書館所蔵図面資料群について（中間報告）」、清水憲一氏「産業遺産の保存活用をめぐる最近の動向」、時里奉明氏「北筑後の近代化遺産～大刀洗飛行場と今村天主堂～」の 3 件が報告され、参加者一同にとって有意義な知見向上の場となった。昼食の後、午後からは、恒例の見学会へと移行した。

### 《会計報告》

収入は、前年度繰越金 17 万 6485 円と会費収入などの合計 31 万 8493 円、支出は、会報発送費、総会・見学会費用など 8 万 6528 円で、決算残高は、23 万 1965 円（次期繰越）であった。

平成 24 年 3 月 31 日現在

事務局長 砂場一明

## 【報告】

### 平成 24 年度総会・見学会

時里奉明（筑紫女学園大学）

### ・大刀洗飛行場

大刀洗町ふれあいセンターで昼食を終えたあと、筑前町立大刀洗平和記念館へ向かった。記念館は民間航空の格納庫をモデルとして、二〇〇九年にオープンしたばかりである。記念館では唯一現存している陸軍九七式戦闘機と海軍零式艦上戦闘機三二型の機体を目の前で見る事ができた。また展示品やキャプションを通して、大刀洗飛行場が陸軍四番目の飛行場として発足し、航空関係における教育機関の拠点となり、二度の空襲で壊滅するプロセスを理解することができた。あまり知られていないが、大刀洗の飛行学校は特攻隊の基地として有名な知覧の本校的な存在であった。そういったことから、記念館が予想を上回る入館者数を記録していることは、喜ばしいことである。

さらに記念館を出て、近くの遺構の数々ー第五航空教育隊の正門、久留米憲兵隊大刀洗分遣隊跡、飛行場の営門、時計台、井戸、監的壕ーを歩いて見て回った。かつて筆者が『筑後の近代化遺産』に執筆するため、探し回った遺構の側に新しく説明板が立っている。記念館の副館長によると、ほとんどの遺構は私有地にあるので今後どうなるかわからない、筑前町に買い上げる財政的な余裕がないとのことだった。遺構は人知れず消滅しており、いかにして保存し活用するか、対策を講じる必要があるだろう。

今回の見学で特筆すべきは、旧飛行場からやや離れて現存している掩体壕である。特別に所有者の許可を得て、内部を見学することができた。また所有者の方から貴重な話しー実際には使っていないこと、鉄材を取り出すため解体しようとしたが中止したこと、近くにもう一つ掩体壕をつくる予定だったこと……を聞くことができたのは収穫である。

意外にも掩体壕の屋根に登ることができ、辺りの風景を眺めることができたのは楽しいひとときだった。同時に屋根のつくりや状態を確認することができた。この掩体壕は急いでつくられたうえ、完成してから時間もたっており、個人では解決できない問題が多々あるようである。これだけの規模の掩体壕はあまりないという。建造物だけでなく証言も合わせて維持し、保存するための措置が望まれる。



写真 旧海軍零式艦上戦闘機三二型

・今村天主堂

次に見学したのは三井郡大刀洗町の今村天主堂である。教会建築で著名な鉄川与助の傑作として知られている。二〇一三年に完成一〇〇周年を迎えるにあたって、内部は空調が据え付けられ、机や椅子が新調されていた。鉄川好み？の花形模様入りステンドグラスは、完成当初から健在である。

天主堂の回りを一周してみると、二つの塔をかかえた正面とは異なる、さまざまな美しい姿を見せてくれる。今村キリシタンは 16 世紀後半に成立して今日まで続いている。まさに今村キリシタンの歴史と現在を表している建物だと感じた。

・紅乙女酒造

最後に訪れたのは、久留米市田主丸町の紅乙女酒造である。紅乙女酒造は「胡麻祥酎」で有名な蔵元である。まず安土桃山時代の建築と伝えられる民家「田舎屋」を見学した。民家は少し改装され、また移築されているが、

釘一本使用することなく当時の原形を留めているという。この最中に雨が強くなったので、傘を借りて貯蔵庫へ向かった。ステンドグラスの入った仕切りのある建物の中に、焼酎の樽が並んでいるのは壮観だった。そのあと、ゲストハウスに立ち寄り、試飲コーナーで飲み比べてみたり、お土産を買ったりした。見学途中から雨が降り始め、帰る時に激しくなったが、貯蔵庫とゲストハウスだったのでどうにかしのぐことができたのは幸いである。北筑後有数の近代化遺産を訪ねたうえ、酒好きにはたまらないお楽しみもあり、有意義な見学会であった。

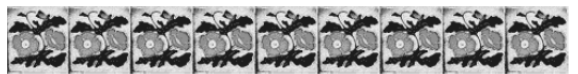


【書籍紹介】

日本の石炭産業遺産

砂場一明

やったあ、と言いたくなるような快著が、本会会員の徳永博文氏によって出版された。タイトルはズバリ『日本の石炭産業遺産』。徳永氏は福岡県志免町教育委員会の学芸員であるが、志免竪坑櫓の保存運動を契機に石炭産業遺産研究を開始して久しく、その間、全国各地を踏査して回った成果の集大成が本書である。解説情報の地域的濃淡や写真の配置に一考の余地なくもないが、これ一冊で北海道から沖縄まで、多数の石炭産業遺産がカラー写真で紹介されていることは偉観であり、恰好のハンドブックとして重宝されることだろう。著者の刻苦精励に対してはもとより、「近代化遺産シリーズ」刊行を志業とされている版元にも敬意を表し、ここに紹介したい。弦書房（福岡市）、定価 2200 円（税別）。



【書籍紹介】

日炭回顧録

市原猛志（九州産業大学）

筆者が九州産業考古学会に入会した 2002

年、水巻町で行った例会で提案された日本炭鉱のOB回顧録がようやく出版の運びとなった。300ページ弱の本著中にはもはや喪われて久しい筑豊のビルド坑日本炭鉱の生々しい歴史が凝縮されている。日本炭鉱の経緯については、今回回顧録の会事務局長を勤め上げた瓜生浩義氏が会報第6号巻頭言（ウェブサイト上にてpdf掲載中）にて述べられているので、こちらを参照願いたい。弦書房ウェブサイトその他、QUESTなどで販売中。

販売委託：弦書房、定価 2000 円（税別）。

**【お知らせ】**

しめの文化財ウォーク

国指定重要文化財の志免竪坑櫓を中心とした志免町の文化財巡りを開催致します。

**日時**：2012年11月4日（日）9:40 **集合**  
**行程**：旧志免鉱業所竪坑櫓→志免鉱業所跡竪坑及び第八坑関連地区→志免町産業遺産収蔵庫→須恵町新原公園→シーメイト（雨天決行）

**問合せ**：志免町教育委員会 Tel:092-935-7100 syakaik@town.shime.lg.jp

■■会報第17号・目次■■

**【巻頭言】**

「204号電車」は帰ってきた  
 ……………古賀知行 1

**【報告】**

平成24年度総会  
 ……………砂場一明 2  
 平成24年度総会・見学会  
 ……………時里奉明 2

**【書籍紹介】**

日本の石炭産業遺産  
 …………… 3  
 日炭回顧録 …………… 3

**【お知らせ】**

しめの文化財ウォーク …………… 4  
 今後の予定 …………… 4  
 会費納入・ご寄付のお願い …………… 4

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い
10月	産業考古学会全国大会（愛媛県新居浜市）	当会は年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 会費納入・寄付先口座（一覧） ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店（店番691） 普通 1914369 九州産業考古学会
11月	the XVth International TICCIH Congress 2012（台湾台北市他）	
11/4	しめの文化財ウォーク	
冬季	大神回天基地跡見学会（大分県日出町）	
	会報18号発行	

<編集後記>

私的事情である所属変更の関係もあり、ページ数を限定しての刊行となった。本来であれば写真を多数掲載したいところではあるが、割り付けの関係上原稿量が足りないため、掲載が叶わなかった。毎々の話であるのだが、皆様の積極的な投稿を希望する次第である。（市原）

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付  
 TEL&FAX：0940-36-5501 E-mail：k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL：http://kias.kilo.jp  
 学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者（iota\_titanus@yahoo.co.jp）まで連絡願います。